石に刻まれた歴史

History carved in stone

人々は長い歴史の中で、多彩な方法で物事を記録してきました。時には文字として紙に書き記し、言葉として伝承のように言い伝えられたものもあります。また、石仏や道標といった形でも人々は石に歴史を刻んでいきます。ここでは美濃加茂市の８地区にのこる石造物の一部を紹介します。歴史を残すのは必ずしも、名のある人物だけとは限りません。路傍の石に耳を傾けると、名もない人たちの声が聞こえてくるようです。

① 深田の庚申塔　（深田町）

寛文10(1670)年の銘がある庚申塔で、中央には病魔を払い除く青面金剛が表されます。

庚申信仰は道教をもとにした民間信仰です。江戸時代初期から石の庚申塔が多く造立されはじめ、市内では36基あります。この庚申像は美濃地方でも最古級です。

② 廻国供養塔　（川合町）

伊豆国(静岡県)熊坂村の行者が、巡礼のために当地を訪れた際、志なかばにしてここで亡くなった人を弔った聖観音の供養塔です。安永9(1780)年に造立されました。

当時の旅の過酷さと、諸国から訪れる仏道修行者に対しての人々の温かな対応や信仰心がわかります。

③ 三界万霊塔　（山之上町上野）

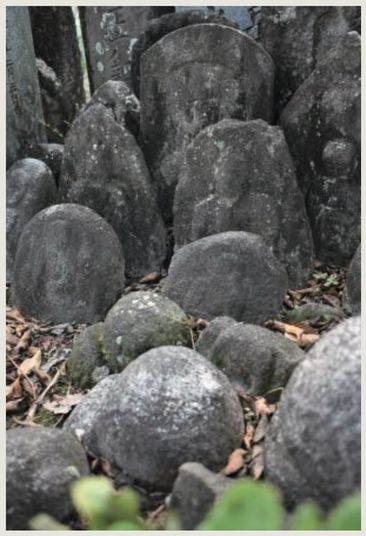
山之上町には雁水池という巨大な灌漑用の溜池があります。この池のすぐ南に立つのが、享保20(1735)年造立の三界万霊塔(世の中のすべての霊を供養することを目的とした塔)を兼ねた記念碑です。

銘文には、この池がつくられた経緯などが記されています。

④ 宝篋印塔　（蜂屋町広橋）

宝篋印塔とは、中世以降、地位があった人の墓碑です。

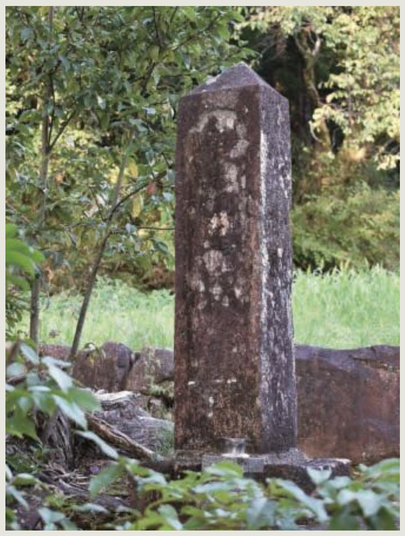
瑞林寺西方墓地にある宝篋印塔の基礎部の中には「永徳二年」(1382年)などの銘を持つものがあります。これは市内最古の石造物で、16世紀はじめとされる瑞林寺創建以前に何らかの寺院が存在していた可能性を示します。



⑤ 小石仏阿弥陀　（加茂野町稲辺）

加茂野町龍月庵では36基の五輪塔群のそばに16体もの阿弥陀如来とみられる小石仏があります。阿弥陀如来は、念仏を唱えることで必ず極楽往生できるという来迎思想に基づくものです。

その素朴な造作から民衆の祈りが込められたものと思われます。これらは室町期中心の制作です。



⑥ 伝伊深義民碑　（伊深町下本郷）

正眼寺大門前に南無阿弥陀仏と記された名号碑があります。「天和の伊深義民」(伊深村の百姓が年貢減免を江戸へ訴え出、処刑された事件)の犠牲者を供養するものです。

そばに立つ徳本名号碑とともに、今も人々の心がこの碑の中に生き続けています。

⑦ 石幢　（三和町平古市）

石幢は灯籠形の石造物で、六地蔵(六道の思想に基づいた六体の地蔵)を彫り表すことが多いです。この石幢も同様の形態をとるもので、銘文により、貞享元(1684)年に建立されたことがわかります。

石幢は近世に入り東濃地方で多く造立されたものの、中濃地域では非常に少なく貴重な一基です。

⑧ 水神碑　（下米田町共栄）

木曽川河畔に集中している水神碑は、川の水に対する畏敬の念と、段丘下に湧き出る「清水」の水への信仰心から立てられたものです。

この水神碑は小山観音のほど近くに立ち、木曽川を下る筏を生業とする人たちにとっても、日々の安全を見守ってもらうものでした。

(①～⑧の所在地は「みのかもの道案内」地図参照)